

わたしの日本についての認識

文学研究科博士課程二年 ◆ 常 健

CHANG JIAN



わたしの日本についての認識は次のように変わってきています。

みんなヘリコプターを持っていると思いましたが。だから、三年前わたしは日本に来たばかりの時、日本の誰にもすこし畏れる気持ちを持ちました。

それから三年間がたちました。その間にいろんな社会活動に参加し、いろんな日本人に接して、日本社会、歴史、経済、政治また日本人などその正体はいったいどんなものだろうか、いつも考えています。詳しく書いたら、一冊の厚い本になるだろうと思いますが、おおまかにまとめて、次のようないくつかの点があります。

日本の民族はとも勤勉な民族です。私と知り合う日本人の中に、学生、先生、田舎の人、工場の労働者、社長、工場長、学長、部長、役人などいろいろいる人がいます。誰に逢っても、またどこへ行っても「いそがしい、いそがしい」という声をよく聞きます。日本人は皆一生懸命働いていると思います。日本人の仕事に対する態度はとても真面目です。日本の製品が精製に精製を重ねて、その品質が世界で強い競争力を持っている。市役所や区役所へ手続きをする時、日付けとか電話番号の一字の誤りも許されません。学校で、先生は真面目に学生を教えていることもよく感じます。

日本の政治家も汚職することを、私は中国にいた時知らなかった。でも日本の法律と監督機関が厳しいので、政治家の少しの悪いことでも許さないし、また処罰も厳しい。これは中国と違うと思います。日本の国は経済技術をととても重視しています。経済情報はとても早く伝わり、外国の技術も早く取り入れられます。だから、日本の経済的な発展が早く進んでいます。

でも、日本人は科学的な基礎理論の研究と文化思想の面でまだ弱いと感じます。中国で、日本は専門家と教授が国を治めるという話をよく聞きましたが、日本に来たあと、こういうことをあまり感じないし、大学の研究経費は、こんなに富んでいる国なのに少ないし、また大学の先生の給料は、大会社の社員の給料よりも少ないと思います。

その他に、日本では外国の知識人もアメリカより重視されていないと感じます。第一次世界大戦の時、アメリカの政府はドイツの千人以上の科学者を、飛行機でアメリカに運びました。それは、後のアメリカの科学技術と経済の発展に大変役に立ちました。

日本では、外国の知識人は滞在する手続きでさえも難しく、外国人にとっては日本は住みにくそうなの国だと思われがちです。

プロフィール

▽一九八二年、中国四川師範大学大学院で修士の学位を取得しました。その後瀘州大学で中国文学研究室主任をつとめました。▽一九九一年、日本に来て広島修道大学人文学部の研究員になり、今は広島大学



大学院文学研究科の博士課程後期の学生です。

今日は！

ニイ ハオ
你 好

一九七七年、中国人の四人組が逮捕されてから二年目、わたしは中国で初めて日本の俳優高倉健さんが主演する「追捕」という映画をみました。映像にながれてきた東京のぎっしり立ち並んでいる高層、川の流れるような車、至る所光っている繁華街、また自分のヘリコプターを操縦して青空に去ったり戻ったりした高倉健さん、及び彼を追いかけている警察たち……それを見て、わたしはびびりました。

ああ、日本はあんなに富んでいる国なのかな、あの時は日本人が

あ、日本はあんなに富んでいる国なのかな、あの時は日本人が